



茨城県担当部署殿、五十嵐つくば市長殿、つくば市市議会議長殿、関係者各位

陳情 4 第 10 号 「洞峰公園整備計画に関する意見」

2022/07/31

つくば市は、約 50 年前まだ茨城県筑波郡谷田部町・大穂町・豊里町や新治郡桜村だった頃、人口が密集している東京都の人口を減らすために国策として、東京都にあった 40~50 の国立研究機関や東京教育大学（現筑波大学）などを人があまり住んでいない地域を平仮名で「つくば」と呼んで、そこに移転させて出来た「研究学園都市」です。多数の異分野の研究機関を有機的に結び付ける効果もありました。

現在、つくば市には約 25 万人が住んでいて、「研究学園都市」を支えている約 150 の研究機関があり、今も発展を続けています。約 2 万人の研究者とその数倍の関係者がおり、外国人研究者や留学生も大勢います。

「洞峰公園」はつくば市の中央近くに位置し、自然豊かなつくば市最大のシンボリック公園です。公園の周辺は戸建て住宅や中層マンションが多数ある静かな住宅地域で、宇宙センター・産総研・物材機構・環境研・気象研など多数の理系研究機関が隣接しています。筑波大学からもそう遠くはありません。

都市建設当初から数十年かけて育てられた多数の高い木々に覆われた「洞峰公園」は、つくば市の人気スポットの一つです。公園の中の大きな池を周回する 2 キロ弱の道路は、歩くと解るのですが、道の曲がり具合・木の種類や配置や高低などが歩行者を飽きさせないように設計されています。数年前のある調査によると、つくば市で行ってみたい場所は順に、筑波山、筑波山神社、JAXA、洞峰公園でした。洞峰公園は、春の新緑・秋の紅葉などの景観も評価されています。洞峰公園は TX つくばセンター駅から両側が樹木で覆われた遊歩道を辿って 3 キロです。公園を巡って駅に戻ると往復 8 キロです。途中、交通信号は一つもありません。電車で行くつくばを訪れる人には絶好の自然豊かな散歩道です。

4 年前の 2018 年 8 月、つくば市の五十嵐市長は市庁舎庁議室における若者との対談で、つくば市を「ヤバいカフェ、ヤバいバー、ヤバい公園とか、いろいろヤバくしていきたいですよね」（SAT、NO34、2018、p4：SAT は（一財）茨城県科学技術振興財団の下部組織つくばサイエンス・アカデミーの広報誌）と語っています。最近の「ヤバい」の使い方は曖昧で、不都合な、凄い、騒々しい、いかがわしい等の意味もあります。この対談の翌年、長年つくば市の研究機関に勤めているアメリカ、ロシア、中国から来た 3 人の外国人研究者は、五十嵐市長の話を受けて、ヤバい場所が好きな研究者は TX で 45 分の東京に行けばよい、つくば市を東京と同じようにヤバくする必要はない、と同誌で述べています。（SAT、NO36、2019、p7）。

今回の茨城県の洞峰公園整備案には、公園周辺の住民や研究者・関係者の意見が反映され

ているとは到底思えません。県から洞峰公園の整備を委託された企業(株)長大は必要な事前調査をやっていないにも関わらず、県の意向であるグランピング、バーベキューガーデン、ドッグラン、クラフトビール工房などを造って洞峰公園をヤバイ公園にする計画に邁進しています。

この計画が実現すると、例えば、公園近くに住んでいる市民や研究者が、夜遅く仕事を終えての帰り道、東京などからやって来たつくば市とは関係のない人達が公園内でバーベキューをやりながら飲んで大声で騒いでいる、といった場面に遭遇する様子が想像できます。

つくば市の住人は、家族で行くと約5万円かかる地元のグランピングに泊まったりはしません。公園近くの住人は、目と鼻の先のバーベキューガーデンにも行かないでしょう。つくば市の郊外には、「ゆかりの森」や「六斗の森」など自然の森林に囲まれた宿泊やバーベキューが出来る、まさに県が洞峰公園に造ろうとしている施設と似た施設が既にあるのです。学園都市の中の住人は、そちらに行くでしょう。今回の茨城県が県立洞峰公園をヤバくする計画は、4年前に県の息がかかっている「つくばサイエンス・アカデミー」の広報誌に載った五十嵐つくば市長の考えを反映しているように思えます。市長の発言は、それを知った県の担当者にとっては渡りに船だったかも知れません。

朝日新聞デジタル版によると今年3月になって、五十嵐つくば市長は自身のツイッターで、「(洞峰公園を)できるだけ現状を維持することを(県に)要望してきました」と投稿しています。4月の定例記者会見でも「(洞峰公園は)閑静な文教地区にありキャンプやバーベキューの適地ではない」と話しています。市長は4年近く経って漸く、以前の発言の誤りに気付かれたようです。が、遅すぎます。県は既に委託業者に予算を付けて、10年契約の事業として今年4月から洞峰公園の整備と運営を始めています。

今回の計画は、県知事の決裁を得た県の担当部署の視点のみが前面に出ています。重要なのは、公園内のスポーツ施設や周回道路を散歩やジョギングでよく利用する地域住人、それと近くに多数ある研究機関の研究者や関係者の意向です。

他県出身者や海外経験者が多いつくば市在住の研究者や教育者からユニークな提案があるかも知れません。

洞峰公園整備計画に関する県のアンケート用紙に、整備の理由の一つに「県の支出削減」のためと書いてあります。これまで洞峰公園の管理維持費として約1億5千万円かかっていたのが、整備計画が予定通り実行された場合約6千万円削減されるらしいです。それが理由なら現行の管理維持費を削減する方法を考えた方がよいと思います。せっかく育った公園の高木を数百本伐採するなど、言語道断です。例えば、維持費が削減できる「自然公園」にするのも選択肢の一つです。

もう一つの理由に「公園の魅力向上」とあります。洞峰公園は今のままでも魅力的ですが、

県の計画に沿って整備すればもっと魅力的になると言っています。しかし、県の行政的視点から魅力的だと言っているに過ぎません。「朝日新聞デジタル版」によると、「公園の魅力をさらに高め、県内外からの利用増が期待できる」と説明しています。約50年かけて創った自然がふんだんにある現在の洞峰公園に、それをわざわざ破壊して公園のほぼ中央に「グランピング、バーベキューガーデン、ドッグラン、クラフトビール工房など」ヤバい部分を造るという計画は、つくば市に住み洞峰公園を日常的に利用している住人に魅力的かどうかは疑問です。近くの多数の保育園児は毎日のように、徒歩や柵付きの台車に乗って公園に来て、公園の自然を楽しんでいます。

「代案」(ご検討下さい)

- ★ 現在の「洞峰公園」は「第1洞峰公園」とし、「自然公園」に近い形に整備する。公園内の運動施設や駐車場の使用料を調整することにより、維持管理費の低減を図る。「研究学園都市」の中心部にある洞峰公園は自然な佇まいこそが貴重であり、公園の周辺にある種々の研究機関・保育園・小学校・中学校・多数の住宅との整合性もよい。
- ★ 県はつくば市から「研究学園都市」の外側の土地を購入して、そこに県立のグランピング・バーベキューガーデン・ドッグラン・クラフトビール工房などの施設を造り、そこを「第2洞峰公園」或いは「洞峰公園アネックス」とする。

つくば市の中心部にある洞峰公園は茨城県が管理・運営しています。水戸にある県庁はつくば市から50キロと遠く離れているので、つくば市民の声が届かないことを危惧します。つくば市に住みそして働く市民に今回の公園整備案の賛否を問うて、その結果を尊重し優先すべきと考えます。

特徴あるつくば市の景観・自然・研究環境・教育環境・住宅環境などを今後も維持して、次世代の若者に引き継ぎたいものです。

つくば市の中心にある「研究学園都市」は日本の宝であり、茨城県の宝です。

(洞峰公園近くの一住民 XXXXXXXXXX)